

見果てぬ夢

2022. 9. 12

世の中では、しばしば夢を抱いて生きることの大切さが語られる。だが、臨床心理学の河合隼雄氏は、かつて、「夢は、実現してしまうと不幸になる」と語っていた。我々の人生において、いったい夢とは何なのか。

河合隼雄氏は、ユング派の臨床心理学者である。心理学の世界のことはよくは知らないが、ユング派とアドラー派ぐらいは聞いたことがある。ユング派は分析心理学、アドラー派は個人心理学と呼ばれている。アドラーの心理学は、近年、日本でも広く知られるようになった。教育の世界でも出てくるようになった。何冊か本を読んだことがある。ユング派の河合氏の本も、以前何冊か読んだことがある。

分析心理学であるユング派の河合氏は、何十年にもわたって数多くのクライアントの夢分析を行ってきた。その河合氏が次のように語っている。

人は、夢を追い求めて生きているうちは幸せなのですが、その夢を実現してしまうと、不幸になるのですね。

我々の人生における一つの逆説を軽やかに、それでいて鋭く洞察した言葉のように思う。この不思議な逆説は、我々が心に抱く「夢」の本当の意味について大切なことを教えてくれている。

テレビでも書籍でも、「夢は必ず叶う」という人物が出てくる。夢が叶った人の話ばかり聞いていると、そうなのかと思えてくる。アスリートや実業家などである。そもそも、成功した人しかメディアには登場しない。夢が叶った実体験から学ぶことは多い。影響も受ける。

だが、以前から疑問だった。そんなに夢が叶うのだろうか。本人の努力と、まわりの環境と、少なからずの運とが、夢を叶えさせる。そこには、本人の強い思いがある。それはわかる。これを誰でもがというのはむずかしい。やはり、ほんの一部の人に限ったことではないのか。夢が叶うのはほんの一握りの人にかまわないように思う。

河合氏の言葉に出合って、妙に安心した。よく夢は目標のようなものとして理解されている。だが、目標ではない。では、夢とは何なのか。夢とは、人生を幸せに生きるための目標ではない。夢とは人生を幸せに生きるための方法である。

「見果てぬ夢」という言葉がある。この言葉には不思議な安堵感がある。夢に対する理解が進むと、この言葉の存在の大きさに気づかされる。見果てぬ夢とは、最後まで見終わらない夢のことである。心残りなことや実現不可能なことの例えとしても使われる。

見果てぬ夢、それは、もしかすると、我々が抱くべき夢の最高の姿なのかもしれない。